

# 花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドジョウが立ててく4

国立市立国立第七小学校

平成28年4月13日 NO.4 (304)



花ちゃん 「あれあれ？<sup>なに</sup>何かいるみたいですね。」

オー君 「そうだよ。これは、<sup>ねんせい</sup>3年生の<sup>くん</sup>A君が<sup>や</sup>谷保天神の<sup>ちか</sup>近くでつかまえたんだよ。」

花ちゃん 「たくさんいるみたいですね。」

オー君 「<sup>ちい</sup>小さいのから<sup>おお</sup>大きいのまで、<sup>ほそなが</sup>細長いのはみんなドジョウですね。モンタ博士。」

モンタ博士「そのとおりだね。よく知っているね。<sup>かんしんかんしん</sup>感心感心。さすが<sup>くん</sup>オー君だ。ところで、<sup>みず</sup>水の中の<sup>なか</sup>生き物にも<sup>い</sup>いろいろいるけどね、<sup>すいそう</sup>水槽に入れた<sup>い</sup>時に、<sup>とき</sup>ハヤ、フナ、コイ、メダカなどはいつも泳いでいるだろう。でも、このドジョウやナマズ、カジカなどは、<sup>すいそう</sup>水槽の<sup>そこ</sup>底でじっとしていることが<sup>おお</sup>多いんだ。」

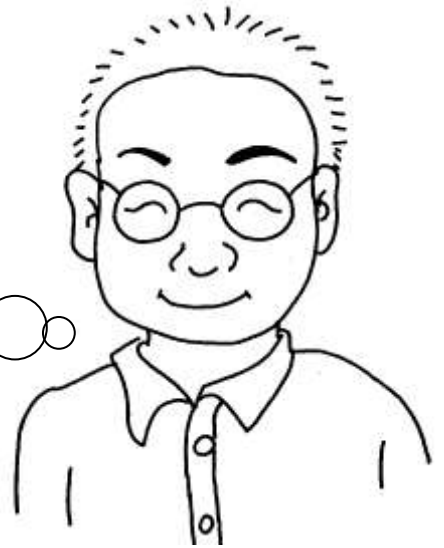
オー君 「へえー。モンタ博士は、<sup>さかな</sup>お魚もよく知っているんですね。」

モンタ博士「そんなことないよ。モンタ博士は<sup>しょくぶつ</sup>植物や<sup>こんちゅう</sup>昆虫のことはある程度わかるけど、<sup>い</sup>生き物全般の<sup>ぶつぜんぱん</sup>ことについては、<sup>くわ</sup>あまり詳しくないんだ。<sup>へんきょうちゅう</sup>いま勉強中だよ。そこで、<sup>こんど</sup>今度、<sup>せい</sup>モンタ星から<sup>ともだち</sup>お友達の『<sup>はかせ</sup>フッタ博士』<sup>き</sup>に来てもらったんだ。」

モンタ博士「フッタ博士！<sup>くん</sup>A君が<sup>も</sup>持ってきてくれたドジョウは<sup>ふつう</sup>普通のドジョウかな。」

フッタ博士「<sup>つい</sup>口ひげが5対、つまり<sup>ほん</sup>10本あるからまちがいなくドジョウですね。」

はじめまして、  
わたしはフッタ博士といいます。  
国立第七小学校に来ることが  
できて、とてもうれしく思っ  
ています。これからも、たまに  
「国立てくてく」に登場させて  
もらうからね。よろしくね！



オー君 「フッタ博士！ドジョウには、他にもいろいろな種類がいるのですか。」

フッタ博士「そうだね。世界には160種類くらい。日本にも数種類いるけど、すべては見  
たことがないんだ。そのうち、フッタ博士が飼ったことがあるのは、ホトケ  
ドジョウオとシマドジョウなどかな。」

花ちゃん 「へえー。フッタ博士もいろいろなことをよく知っているんですね。私は花ち  
ゃんといいます。これからもよろしくお願ひします。」

フッタ博士「はい。よろしく。ところで、『どじょっこふなっこ』という歌があるんだよ。」

♪春になれば しがこ（氷）もとけて

どじょっこだの ふなっこだの 夜が明けたと思うべな♪

フッタ博士「それから、ドジョウはおならをするんだ。知っていたかな。」

オー君 「え！おなら。」

フッタ博士「ドジョウは、水面で口から吸い込んだ空気をおなかの腸にためて、腸から  
酸素を呼吸する『腸呼吸』というものをします。そのため、水の中の酸素が  
不足しても生きていけます。ときどき、吸い込んだ空気を出すためにおしり  
から『おなら（あわ）』を出すんだよ。」



シマドジョウ



ホトケドジョウ